

第4回西嶋和紙絵手紙展

「人と人との心をつなぐ」

ACTIVE KUMIAI

西嶋和紙工業協同組合



審査員に頭を悩ます選考

西嶋和紙工業協同組合（笠井一洋理事長）・西嶋和紙全国絵手紙展実行委員会（笠井義仁委員長）は、第4回西嶋和紙絵手紙展の作品を募集し33点の入選作が決定、10月16日になかとみ現代工芸美術館で表彰式を行った。

身延町西嶋は、手漉和紙の産地として歴史を積み重ねてきた。現在では全国有数の書道

用紙の産地として書道家に愛用されている。

また、書道用紙以外の和紙の研究開発を進め、卒業証書用紙をはじめ、壁紙や和紙照明等の生活にぬくもりを与えるような和紙作りにも力を注いでいる。

その中で、先達が築いた「書道用紙の里」の名に加え、もう一つ「絵手紙の里」づくりの思いを描き、絵手紙を通じて「人と人との心をつなぐ」を目標に、西嶋和紙絵手紙展を実施してきた。今年で、4回目となるテーマは「日本の心」の他に、東日本大震災の被災地の方々に応援メッセージを届けようと考え「がんばろう日本」を併せて募集したところ、全国から1,656点が集まり、山梨県美術家協会顧問の斉藤静輝氏を筆頭に同組合員ら13名による審査の結果、「さげもん」と呼ばれる佐賀県佐賀市の大井妙子さんの作品がグランプリに選ばれた。12月からは応募作品中、約300点を、震災を受けた岩手県遠野市の中心市街地活性化センター「とぴあ」をはじめ、6ヶ所で巡回展を開催する。

同組合は、全作品を収めた作品「西嶋和紙絵手紙展作品集」を作成し西嶋郵便局を通じて、岩手、宮城、福島3県の郵便局へ約100冊を寄贈し、各郵便局で自由に閲覧してもらう予定。同組合や和紙の里でも作品集の販売をしている。1冊1,500円。お問い合わせは西嶋和紙工業協同組合、電話0556-42-3234



グランプリ「さげもん」